

佐賀大学同窓会提供講座 「キャリアデザイン～自分発見講座～」

新富 康央（高等教育開発センター長・文化教育学部教授）

平成17年度、高等等教育開発センターは、2つの提供講座の導入を図った。一つは、佐賀県との協力協定における「映像学」関連講義の導入である。これについては、県からの派遣講師である、映画評論家・西川雄一郎氏の学内における協力者であり、これを契機として誕生した「佐賀県ふるさと映像塾」の世話人代表でもある、文化教育学部角和博教授に報告して頂くことにした。

ここでは、もう一つの提供講座、佐賀大学同窓会提供講座「キャリアデザイン～自分発見講座～」について、活動報告をしておきたい。なお、本提供講座の教育効果等については、数年の授業成果の積み上げの後、別途分析され、報告書等に纏められる予定である。

「キャリアデザイン」講義概要とカリキュラム上の意義

高等教育開発センターでは、平成16年10月頃より佐賀大学同窓会に働きかけ、教養教育科目の中に「キャリアデザイン（自分発見講座）」を開設し、今年度後期から開講した。

本センターの働きかけに対して、本学同窓会では当初より前向きに検討し、検討開始から約1ヶ月あまりという異例のスピードで、同窓会総会において、キャリア教育への講座提供が決定されるに至った。この場を借りて、お礼を申し上げたい。

担当教員は、高等教育開発センター長新富を代表として、各講義を担当する講師は本学卒業生があたり、経費等を含め佐賀大学同窓会が全面的に支援するもので約250名の学生が受講した。派遣講師の依頼も、すべて同窓会事務局の責任においてなされた。

最近、社会問題にもなっているフリーター、ニートの増加あるいは就職後の離職率の高さなど、若年者層における職業意識の希薄さに鑑み、本講義を提供することにより大学で学ぶことの意味の再発見や、社会の最新の動向を知るきっかけとなることを期待するものである。本学ではこの他に、キャリアセミナー、キャリアガイダンス等を体系的に組んでおり、それらとの接合による相乗効果も期待される。

講義の内容は、キャリア・アドバイザーの総括的な導入のための講話（総論）に始まり、産業界、教育界、医学界、農林畜産界等にわたる各分野で活躍している卒業生の、各界の最新情報と彼らの生き様を聞くことにより、職業選択と進路探しの基礎にしようとするものである。

キャリア教育において、本学同窓会提供により行われることの意義は、以下の3点に要約されよう。

- (1) 各分野で活躍中の人材を派遣してのこの種の講義の多くは一般に、その道で勇名をはせた逸材を講師に招待しての講演会の形式を採る。もちろん、それも学生にとって、

キャリア教育における、一つの「自分さがし」ではある。しかし、学生にとって。彼らの寸法に合致した、先輩たちの講話は、より身近な「自分さがし」となろう。

- (2) 本講座におけるキャリア教育は、直接の進路指導＝就職適応指導としてではなく、あくまでも、「自分さがし」を主たる目的とした、アイデンティティ確立のための支援教育と捉えたい。その時、いわゆる功名をはせた「偉大な人物」よりも、自ら（自己）を映す鏡としては、先輩の方が果たす役割は大きいと考えられる。何よりも先輩の活躍を知ることにより、自己の将来に対する心の安定と安心が与えられ、将来に向けての設計を具体化する意欲づくり、さらには専門分野の修学への動機付けとなる。
- (3) 同窓会においても、これまでどちらかといえば、裏方的な大学のサポーターであったが、これにより、より同窓会の活動が見え易いものとなる。また、当然の事ながら、同窓会と現在籍学生との交流が深まり、同窓会のアピール度も高くなる。

平成17年度「キャリアデザイン」講義シラバスと講義日程

本年は、以下に示した講義シラバスと講義日程に基づき、学務部就職課（石本孝課長補佐他）および教養教育教務課（佐藤和男教養教育企画係長他）の多大なるご尽力のもと、予定通り進められた。

開講年度	2005年度	開講学期	後期	単位	2単位	対象クラス	全学
授業科目名 サブタイトル	キャリアデザイン(自分発見講座)						
担当教官	新富康央（代表）他	所属学部	文化教育学部	研究室			
授業の 概要と目標	<p>第4分野 総合型授業（第3分野、第6分野）</p> <p>キャリア教育には職業進路指導という狭い範疇のものと、「自分探し」につながる広いものがあります。自己を見つめる鏡 (looking mirror ego) には様々なものが考えられますが、その主要なものの一つとしてキャリア（職業経験）があります。キャリアデザインというのは、自分探しや自己発見探求をすることによって、職業進路探しの基礎にしようとするものです。とくに多様な世界に羽ばたいて行く学生の皆さんの社会への橋渡し役が期待されている私たちとしては、青年期におけるアイデンティティ（自己同一性）確立の一助となればと思い、佐賀大学同窓会の支援のもと（佐賀大学同窓会提供講座）、本講義を企画しました。本講義を通して、大学で学ぶことの意味の再発見や社会の最新の動向を知る契機（きっかけ）となることを期待しています。</p>						

授業の進め方	キャリアアドバイザーによる総括的な導入のための講話（総論）に始まり、産業界、教育界、医学界、農林畜産界等にわたる各分野で活躍している先輩諸氏（OB、OG）の、各界の最新情報と彼らの生き様を聞き、今、大学で学び、キャンパスライフをおくことの意味を考えてもらう。受講生には毎回、講話内容と自己の生き方を見つめたコメントを提出してもらう。先輩諸氏は、学生の皆さんにとって、自分たちの寸法に合った身近な存在という得難い講師陣です。それだけに本講義では、講師陣にいろいろ質問をする積極性を受講生に求めます。
授業計画	講義概要の詳細は、開校時に提示する。 ① ガイダンス（講義概要） ② キャリアデザインとは（先輩キャリアアドバイザーに聞く） ③～④ 実業界で働く先輩等に聞く ⑤～⑥ 教育及び福祉の世界で働く先輩等に聞く ⑦～⑧ 産業界で働く先輩等に聞く ⑨～⑩ 医学界で働く先輩等に聞く ⑪～⑫ 農林・畜産界で働く先輩等に聞く ⑬～⑭ 総括
成績評価の方法と基準（到達度）	レポート、毎回提出の講義コメント、出席状況等で総合的に評価する。
テキストおよび参考文献	各講師がその都度、紹介する

平成17年度後学期「キャリアデザイン」講義日程

平成17年度後学期「キャリアデザイン（自己発見講座）」の講義日程						
	実施期間	10月5日(水)～2月8日(水)				
	曜日・校時	水曜日2校時(10:20～11:50)				
講義順	実施月日	内 容	担 当 者			
1	10月5日	ガイダンス	新富 康央	濱内 繁義	副島昭十朗	就職課長
2	10月12日	キャリアデザインとは	平岡茂富美			
3	10月19日	私のキャリアデザイン (就職内定者に聞く)	新富 康央	(小林幸子)	(樋口喜代子)	(松尾義法)
4	10月26日	実業界で働く先輩等に聞く	関本 優			
5	11月2日	実業界で働く先輩等に聞く	副島昭十朗			

6	11月9日	教育及び福祉の世界で働く先輩に聞く	井上正一郎			
7	11月16日	教育及び福祉の世界で働く先輩に聞く	吉木 靖範			
8	11月30日	産業界で働く先輩等に聞く	田中 登			
9	12月7日	産業界で働く先輩等に聞く	田中 正和			
10	12月14日	医学界で働く先輩等に聞く	枝國源一郎			
11	12月21日	医学界で働く先輩等に聞く	岩本 幸子	土肥佐和子		
12	1月11日	農林・畜産界で働く先輩等に聞く	田中 洋平	上村 悦子		
13	1月18日	農林・畜産界で働く先輩等に聞く	福田 徳之			
14	1月25日	総括(学生の質問に答える)	新富、濱内、副島			
15	2月8日	レポート				

学生のコメントにみる授業成果

履修学生には毎回、コメントを提出してもらい、最終評価はレポートで行った。したがって、その数は膨大なものになった。今後の指導上の重要な資料となるであろう。これらを概括的に要約すると以下のようなものである。

- 大学で教わった事は、どれも就職先で必ず役に立つという確信を得た。役に立たないというのは、本人が役立てていないだけのようだ。
- 大学でのキャリア教育は、友達づくりや課外活動を含めて、キャンパスライフすべてである。したがって、キャンパスライフの充実こそが、キャリア教育の充実に結びつくということのようだ。ほんやりと何となく過ごすような4年間ではいけないことを知った。
- 今日、どの分野に就職しても裾野が広く、この分野はどの専門学部というように、固定して考える必要がない。例えば、医療の分野でも、文化教育学部も、経済学部も、農学部も、さらには医療工学という点で理工学部さえ関係している。
- 自分なりの考え（ポリシー）を持っている人間が、どの分野に就職するにしても大切である。それが、生き甲斐や働きがいにつながり、目の前に立ちふさがる苦難を超えるエネルギーになることを知った。
- どの分野の職業に就いたとしても、とにかく一生懸命頑張ってさえいれば、人間的に成長させてくれることがわかった。
- 大学がこのような講義を用意してくれたことに感謝し、また、そのことによって、大学から支援してもらえるという安心感を得ることができた。
- キャリア（職業）を通して、自分さがしを始めるのに早すぎるということはないことが

わかった。この講義を自分さがしのきっかけにしたい。

- 漠然とした気持ちで、佐賀大学に入学した。高校時代まで、ほとんど将来のこと、ましてや就職のことなど考えたことも、考える機会も場もなかった。
- 自分たちの先輩が各分野で活躍していることが分かり、頼もしく、また嬉しく思った。
- 同じ経営者の立場でも、新聞に掲載されているような経営者とOBの経営者とは、発想が違うことが分かって、素晴らしいと思った。(なお、これを書いた学生は、講師に直接連絡を取り、接触を図っている)
- いろいろな分野の第一線の現場の話が聞けて、今勉強していることとのつながりが理解でき、学習することの意欲がわいてきた。
- 自分は4年生であるが、もっと早くこのような授業に出会えておけばよかったと思っている。それにしても、先輩たちはよく頑張っている。今、自分の生き方を反省している。
- 自分の生き方に責任を持つ。就職活動を超えて、これからの生き方を考えさせてくれる、心に響く講義であった。
- 一部の人かもしれないが、せっかくよい話をしてくれているのに、内職を始めたり、隣と小声で雑談している人もいる。注意して欲しい。(私の反省です。次年度以降は、受講態度も指導することにします。)
- 佐賀大学の昔の学生の生活ぶりを聞くことができ、親近感を感じた。「今も昔も同じだな」というところと、「自分たちには欠けている部分」があることに気付いた。それは何か、考えたい。
- 趣味、夢(目標)を持つことの大切さを、具体的に話してもらったので、今の自分が大切なのだと、確信することができた。
- この講義を通して就職情報や、キャリアガイダンスなどの案内が入ることも役に立った。
- 「キャリア指向性自己調査」などに挑戦してみます。

これらは、学生たちの思いの一部を垣間見た程度であるが、他の講義にはない別種の新鮮な知的な刺激と知的な気づきを得ていたことは、確かである。本年度は導入の年ということで、学習態度の指導など、課題も残した。しかし、学生たちに大きな成果を残して、実現できたということをまずは喜ぶたい。「継続は力なり」。「キャリアデザイン」講義に落ちた一粒の種が、本学におけるキャリア教育のさらに大きな実りとなることを祈念して、活動報告としたい。

(付記)

なお、今年度「キャリアデザイン」学生レポートは、就職課(学生支援室・就職支援部門事務局として)においてファイル保存して頂きます。必要とされる先生方は、学生部就職課にお問い合わせ下さい。